

< グループ協議 主任班1グループ >

① 教育課程の編成 (Aグループ)

- ・ 主任の役割として発達をおさえたねらいになっているのか子供たちの何を育てたいのかを「伝えていく役割」と、保育後の振り返りで担任自身が反省し「気付かせていく役割」とがある。
- ・ クラス便りに保育のエピソード記録を載せ、子供たちの育ちを保護者と共有できるようにしている。

② 発達支援コーディネーターとしての主任の役割 (B・Cグループ)

- ・ クラス持ちの担任も、「支援の部屋」での様子を見る機会を設けていき、支援方法や子供の表れについて学べるようにしていきたい。
- ・ 2学期初めに、今後の支援方法についてキッズサポーターと話し合い、支援方法を共有していく。
- ・ 保護者の理解を得て、併行通園している機関に様子を見学に行く場を設けた。専門機関との連携がとれ、保育に生かすことができた。



③ 防災や安全指導による危機管理(Dグループ)

- ・ 各園の避難訓練の事例を話し合った。様々な場面を想定した訓練の大切さを学び合い、訓練の仕方の参考になった。
- ・ 次回は、コロナ対応で行っている対策について協議していく。

④ 「はままつの教育」「特色化推進」における教育活動の工夫(E・Fグループ)

- ・ 「はままつの教育」や「10の姿」など、若手職員にも分かりやすいよう、絵や図の資料を活用し理解を深めていく。
- ・ 指導計画の見直しでは、研修テーマに絞って見直している。10の姿を捉えた形式に変更した。見やすくなったが、検証やすり合わせなど行っていくには1年ではやりきれない。

⑤ 家庭への発信の仕方や保護者対応(Gグループ)

- ・ PTA活動では、園の考えをしっかりと伝えて、任せるところと園が入るところのすみ分けをしている。
- ・ 子供や保護者への関わり方について話し合った。

主任班1 ～助言者御指導(抜粋)～

- ・ 「見・繋・温」の「見」では、若い職員が主任をよく見て学んでいる。「見」られているということは、学んでほしいと思うことだけでなく、そうでないことも「見」られている。
- ・ ある失敗をした時に当時の校長は、必要以上に私を責めることなく庇ってくれた。失敗をして一番反省しているのは、本人である。よほどのことがない限り、失敗を責めることはやめようと思った。「失敗してもいいんだよ」という気持ちをもてるようにしたい。
- ・ 先日、新聞に「パワハラ被害者が加害者に」という記事が掲載されていた。過去にパワハラを受けた管理職員は、部下にパワハラする傾向が約5倍である。自分が過去に受けたパワハラを「教育」として前向きに受け取り、上司になっても厳しい指導が必要と思い込み、パワハラをしている可能性があるという内容であった。職員が、そんな主任の姿を「見」て学ぶことがないよう気を付けなければいけない。

< グループ協議 主任班2グループ >

① 少人数に特化した教育課程の編成 (H・I・Jグループ)

- ・ 発表会や運動会などの取り組み方について各園の実情に応じていろいろな悩みがある。少人数カリキュラムのQ&Aの中に取り入れていけると良い。
- ・ 少人数保育カリキュラムの中にキッズや担任補助の少人数だからこそその関わりのポイントを示すと良い。少人数の行事をどう運営していくか、具体的にカリキュラムに掲載していく。
- ・ 子供の思いに流され過ぎていないか、教師の意図や思いが強すぎていないか、振り返る必要がある。

② 「幼児期に育てたい力」の活用と「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」(10の姿)から資質・能力を捉えた評価 (K・Lグループ)

- ・ 遊びの様子を毎日写真で掲示しコメントを入れるようになってきたことで、10の姿につなげるための意識付けがされ、教師の見取る力の向上につなげることができた。保育実践についても園全体の保育のおさえを明確にしたり振り返ったりする力が向上してきている。
- ・ 職員間で共通理解を図るために、園内研修の内容、方法の見直しをしていく必要がある。

③ 発達支援教育の理解と保育の充実 (M・Nグループ)

- ・ 保護者との連携は伝え方が難しい。専門的なアドバイスを参考にし、教師も学びながら園全体で取り組んでいく。
- ・ イラストと写真混合カードを活用しながら、個に合った対応をしていく。言葉とイラストをつなげることでたくさんの言葉掛けを必要としなくなる。
- ・ キッズサポーターとの連携を図るためにビデオ、ノートを使用したりして、共通理解が図れるようにしている。

④ 保育推進のリーダーとしての発信力や助言力の育成と学びにつながる園内研修の推進

(Oグループ)

- ・ 指導計画の反省を園内研修の中で行い、育みたい資質・能力・経験等が明確になるようにする。
- ・ 限られた時間内で研修をしていくため、研修方法の工夫が必要である。

主任班2 ～助言者御指導(抜粋)～

- ・ 各地域や行政で教えられたこと、先輩諸氏に学んだことの中で、キーワードを紹介

『なかなか出来なかったが、肝に銘じておきたいいくつかのキーワード』

- ①子供、保護者、地域の方々の思いを一番に
- ②判断の基準は常に子供のこと
- ③信頼を得られれば任せてもらえる
- ④PTAの信頼を得ると仕事がやりやすい
- ⑤「この主任の言う事なら」となれば職員がついてきてくれる
- ⑥一生懸命
- ⑦主任の席が職員室の中央にある意味
- ⑧職場を明るく
- ⑨思いやりと自信をもって職員指導
- ⑩職員には公平に接する
- ⑪軽いフットワーク
- ⑫素早いレスポンス
- ⑬タイムリーな処置
- ⑭表現力が大切
- ⑮地道な毎日のボディブローで
- ⑯研修、法令に強い主任は一目置かれる
- ⑰バランス感覚の大切さ
- ⑱園長の意を体する
- ⑲オブラート包みの報告は問題
- ⑳昼間は調整に徹する
- ㉑先を見て仕事、その準備
- ㉒仕事は遅いよりも速い方が良い
- ㉓「法令・原則に忠実」が身を守る
- ㉔良い意味での懐疑心
- ㉕危機管理の1番手は予防
- ㉖どこが薄い穴があきやすいか水のこぼれるところはどこか
- ㉗やった方がいいのかなと思ったらやっておくべき
- ㉘先輩に学ぶ
- ㉙愚痴を言わない
- ㉚時に敢えて苦言を呈す
- ㉛出入りの業者にはまめに触れ合うと助けてもらえる
- ㉜環境整備は身をもって進める
- ㉝労を厭わない
- ㉞ていねいな仕事
- ㉟ちょっとつらくとも休みの日でも登庁の必要あらば可能な限り出向く
- ㊱良い保育を主任がやる
- ㊲一人職を大切に
- ㊳働き方改革の視点を